第２学年２組　道徳科学習指導案

令和２年１１月１１日（水）　　第２校時
場　　所　　２年２組教室
児　童　数　　男子１６名　女子１１名
授　業　者　　教諭　　小林　岳登

１　主題名　　勇気をもって　　内容項目【Ａ―（１）善悪の判断、自律、自由と責任】

２　本時のねらい　主人公の心の葛藤からどうするべきか考える活動を通して、周囲の意見に流されず自分の正しいと信じるところに従って判断するべきだと気づき、勇気をもって正しいこと進んで行おうとする心情を育てる。

教材名　　おれた　ものさし（出典「新しいどうとく２」東京書籍）

３　主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容について

本内容項目の小学校１年生及び２年生の指導の観点は、「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」である。これが中学年では、「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。」、高学年では「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。」と発展していく。更に中学校では、小学校の内容項目Ａ－２にあたる「正直、誠実」と合わさり、「自立の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」に発展していく。

よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じるところに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。自分でも悪いことだと思いながらも、周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは、被害者や加害者にとってもよいことではなく、本当の友達とよべる姿ではない。よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、正しいことについて的確に判断し、勇気をもって主体的に行動する心を育んでいきたい。

（２）これまでの学習状況及び児童の実態について

２年生の児童は、まだ自己中心性が残り、相手の立場や気持ちを考えるまでに至らないことが多い。思ったことをすぐ口にしてしまったり、言葉でうまく伝えることができずに手を出してしまったりすることがあるのも、この時期の児童の特徴である。

また、正しいことと悪いことの区別をしても、影響力の強い友達に誘われると、よく考えずに同一行動をとってしまうこともある。

本学級の児童は、明るく活発である。２学期が始まって２か月がたち、学校生活にも慣れ、学級の友達ともより仲良くなっている。授業や行事にも意欲的に取り組み、友達同士で助け合いながら取り組む姿が見られる。また、教室で密になって遊ぶ友達を注意したり、お互いに授業の始まりの時間の声掛けをしたりするなど、きまりを守って正しく行動しようとする様子が見られる。

一方で、発言力の大きい児童には言いなりであったり、自分に不利益があることについてはごまかしたりうそをついたりしているところも見受けられる。

児童に行った意識調査では、次のような結果であった。

問１．友達が正しくないことをしているのを見たことがありますか。	ある　　２０人	ない　　２人

問２．そのとき、あなたはどうしましたか。	ちゅういをした １５人	だまっていた ４人	それいがい １人（見ていただけ）
問３．それは、どうしてですか。	ちゅういをした ・いけないことをしていたから。 ・けがをしそうだったから。 ・ルールをやぶっていたから。 ・そのままにするとほかの人にも迷惑がかかるから。 ・また危ないことをするかもしれないから。 ・注意したらやめてくれるから。 だまっていた ・だれかが注意をしてくれると思ったから。 ・めんどくさいから。 ・どうやって注意すればよいかわからなかったから。		
問４．問２のことをして、あなたはどんな気もちになりましたか。	ちゅういをした ・やめてくれてうれしい。　・ぞわぞわした ・かなしい気持ち。　・こまった気持ち。 ・よかった。　・すかっとした。 ・正しくないことを止めたい。 ・強く注意をしすぎてしまった。 だまっていた ・いやな気持ち。　・こまった気持ち。		

児童のアンケート結果を見ると、学級の半分以上の児童が友達の正しくない行動を注意することができていることがわかる。一方で、見たことがないと答える児童もあり、友達の良くない行動に気が付けていない、あるいは善悪の判断が十分身についていないと思われる児童もいることがわかった。注意をしたことのある児童の中では、よい気持ちになった児童もいる中で、逆に困ってしまう児童がいることもわかった。また、正しくないことをしている場面を見ても、そのままやり過ごしてしまったり、見て見ぬふりをしてしまったりする児童がいることからも、傍観者にならず、勇気を持って、正しいと思った行動をしようとする気持ちを育てていきたい。

（３）教材の特質や活用方法について

本教材は、先生のものさしを折ってしまったのぼるが、近くにいたひろしに罪をなすりつけようとする場面から始まる。のぼるの仲間たちはひろしのせいにしようとはやしたてる。それを見ていたぼくは、ひろしと同じように下敷きを割った罪をなすりつけられた経験を思い出す。ぼくは思わずひろしの手からものさしをとり、のぼるにわたす。みんながのぼるを見るなか、のぼるはだまってものさしを受け取る、という話である。

加害者ののぼる、のぼるに加勢する仲間たち、被害者のひろし、正しいことをしたぼく、周りで見ているみんな、と実際に起こりうるような場面設定で児童にとってもわかりやすい教材である。また、加害者や被害者だけでなく、のぼるに加勢した仲間たちや周りで見ているだけの傍観者たちのことについても触れて、考えていきたい。

本学級の児童の実態を受け、主に次のことを中心に話し合うこととする。

①のぼるに対して、ぼくの取った行動

②行動できたときのぼくの気持ち

以上の理由から、本主題を設定した。

４　学校研究との関わり

【研究主題】　自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の力を育む道徳教育
～考え・議論する道徳を目指した授業づくりを中心に～

上記の研究主題を具現化するために、以下の手立てを講じる。

【手立て】

①考えを明確化する工夫

議論する中で、自分の考えを帽子の色で表すことで、可視化され、今の自分の考えを自己や他者に知らせ、他者の考えを目でも知ることができる。また、同じ帽子色で考えを表している友達でも根拠が違う事に気が付いたり、異なる帽子色を表したりしている友達の意見を聴いて、共感できたり等、多様な考えに気付かせたい。また、自分の考えが、変わったり、揺れ動いたりして、帽子の色を替えるまたは、替えようか考える行動そのもので、迷いや変化を自覚し、多角的な見方や考えの深まりを感じられるようにしたい。

②ワークシートの工夫

道徳科の授業においては、毎回同じ形式のワークシートを用いることで、児童が安心して流れを見通して、主体的に取り組めるようにしたい。児童の発達段階を考慮し、主体的に思いを記述し、考えを広めることができるように、行があるワークシートとないワークシートを用意し、自分で記述しやすい方を選択できるようにする。まず、主発問について考えを記述する欄を設ける。次に自己を見つめて書く欄を設け、これまでの自分の生き方を振り返ったり、これからの自分の生き方を見つめたりし、考えられるようにする。そして最後に、自分の学習の取り組み方を振り返る欄も設ける。

5　学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1　「正しくないことを友達がしていた時、どうしているのか」を聞いたり、学級アンケートを見たりして実態を知る。 （5分）	・注意する ・怖くてできない ・やっている事によっては、注意する ・親や先生に相談する ・言った方がいいのはわかるけど、黙っている	・善悪の判断を想起することでねらいとする道徳的価値への意識付けをするために、問いかけをしたり事前アンケートの結果を提示したりする。 ・自分の考えを自由に発表できる雰囲気を作る。 ・分かっているけれどできないという人間理解も意識化する。
	友達が正しくないことをしているのを見たとき、あなたはどうしましたか。		
展開	2　教材「おれたものさし」の読み聞かせを聞き、登場人物の心の変化を中心に話し合う。 （２０分）		・簡単に登場人物やあらすじについて確認してから範読する。 ・正しくない行為を目撃して、善悪の判断を行動に移せるかという問題意識をもちながら範読を聞けるような言葉がけをする。
	【場面の確認】 ぼく…ひろしがのぼるがおったものさしをおしつけられるのを見た。そして、以前に、自分も下敷きをおしつけられた事を思い出す。　（後段伏せる）		
	(1)ぼくはどうして胸がどきっとしたのでしょう。	・あの時と同じだ。 ・僕も自分のせいにされた。 ・ひろしをたすけないと	・僕の心の中で迷いが生じていることをおさえる。
	(2)この後、ぼくは、どうしたでしょうか。	・注意する。 ・ひろしをたすける。	・何を迷っているのかの選択肢を出させて、行動するか、しないかの選択につなげる。

	(問い返し例) 【自分で行動する】 ・自分の時は言えなかったのは、どうしてか。今回はなぜ言えるのか。 ・のぼるだけでなく、仲間たちも一緒になって言っているのに、注意できるのか。 【行動しない】 ・見て見ぬふりをしてよいのか。 ・また、自分や他の人にも繰り返されるかもしれないがよいのか。 【わからない・相談する】 ・後から先生に言うのでよいのか。ひろしはどうなるのか。 ・最初から人任せでよいのか。何かできることはないのか。	**⇒自分で行動する** ・どうしたらいいかわからない ・先生に言う。 **⇒わからない・相談する** ・黙っている。 **⇒行動しない** **【自分で行動する】** ・悪いことだから注意する。 ・人のせいにしてはいけない。 ・ひろしをたすけたい。 **【行動しない】** ・のぼるやのぼるの仲間たちがこわい。 ・自分が巻き込まれたらいやだ。 ・勇気がない **【わからない・相談する】** ・どうしたらいいかわからない。 ・先生に相談する。	・ワークシートに自分の考えを書かせ、帽子の色で考えを知らせる時間を確保した上で、発言の指示をする。 ・行動するかしないかの二項対立になっているが、色で表せない迷う児童も巻き込んで、様々な事について児童が悩んでいることに着目をさせる。 ・話し合いの中で行動したくてもできない気持ちがあることをおさえたい。 ☆教師の問い返しや他の児童の意見を聞き、多面的・多角的な考えを深めている。
	3　(後段を読み)どうして僕は行動することができたのでしょう。(5分)	・ひろしを助けたかった ・正しいことをしようと思った。 ・勇気があった。	・僕だけでなく、のぼるの仲間たちや周りで見ている人たちの行動にもふれて気持ちを考えさせ、自己の振り返りへつなげる。
	4　自己を振り返る。(１０分) ・これまでの自分を振り返って、これから一人ひとりが良いと思ったことを進んでしていける様にするためにはどうしたらいいと思いますか。	・一人ひとりが勇気をもつ。 ・小さなことでも正しい事を言う。 ・みんなで声を掛け合って、間違っていることを許さない。 ・正しいなと思ったことは、「そうだね。」と認め、応援してあげる。 ・自分が間違っている時は、素直に認め、謝る。 ・間違いは、誰にでもあるから、今度から気を付ければよいという許す心を持つ。	・書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 ☆これまでの自分を振り返りながら、誠実に生きることのよさを自分なりに考え、深めている。

終末	5　授業をまとめる。（３分） 6　学習の振り返り　（２分）		・善悪を区別し、良いことを進んで行おうと生活していこうとする 意欲を高める。 ・ワークシートに記入する。

5　他の教育活動との関連

事前指導

（１１月　学級活動）
・題材名　「みんななかよし」
クラスをもっと良くするためにはどうするか、クラスのためにどんなことができるのか考えさせる。

道徳の時間

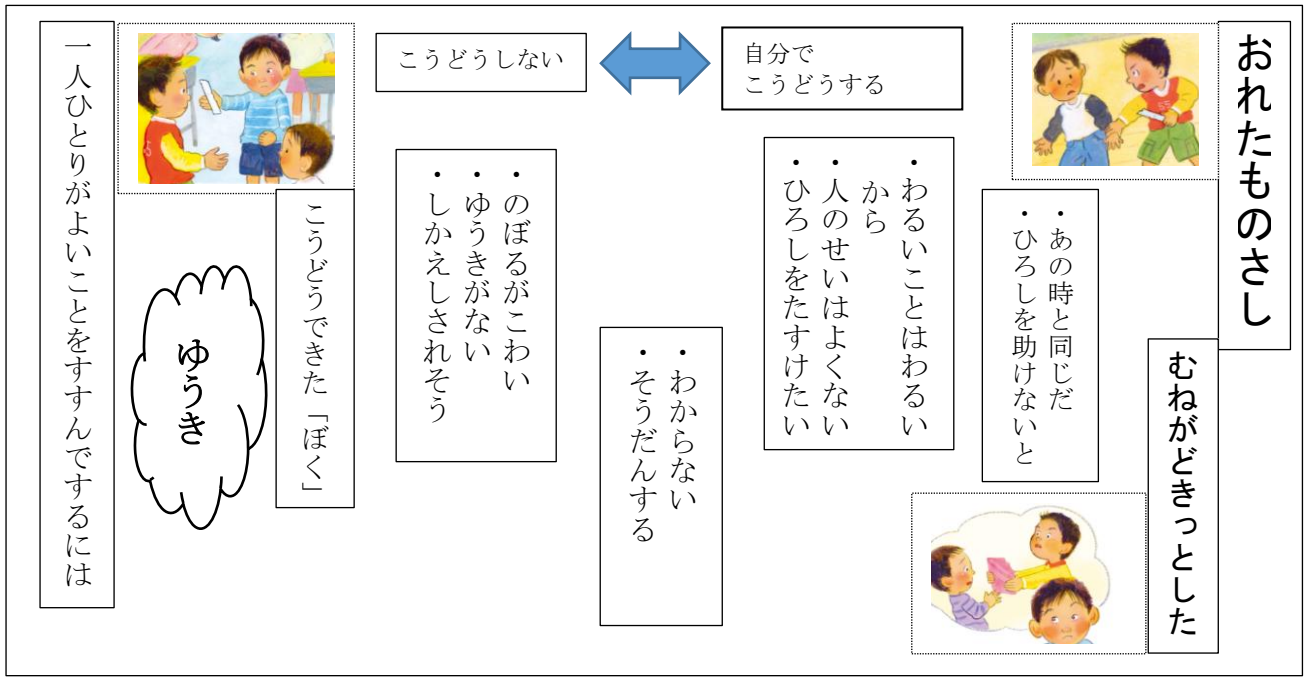
（７月）
・教材名「わすれられないえがお」
正しいと思ったことは、進んで行おうとする心情を育てる。

（１１月）
・教材名　「おれた　ものさし」
よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。

事後指導

（帰りの会）
・一日の中で互いに頑張ったことや助け合ったことなどを紹介し、お互いを認め合う気持ちを育む。

家庭との連携

学年通信で授業の流れや姿を伝える。また、保護者会の中で、規則正しく生活している姿や互いを思いやり、助け合う児童の姿について紹介する。また、場面に合わせてご家庭でも児童の頑張る姿を称賛していただけるようにお願いする。

7　板書計画